

## 豊里地区に関する文献調査結果

資料名：広報ひがしよどがわ（平成17年1月号）

### 乳牛牧跡

- ・古代の律令制時代以来、典薬寮（朝廷で医薬を取り扱っていた官省）に所属していた「味原牧（あじふのみき）」が現在の南江口、大桐、大道南あたりに分布していたといわれ、乳牛を飼育していたことから「乳牛牧（ちゅうしまき・ちちうしまき）」と呼ばれていた。
- ・住民は、所役や雑役を免除される代わりに牛を飼育し、牛乳、蘇、酪を製造するとともに、母牛、子牛を典薬寮に送る義務があった。
- ・東淀川区大桐五丁目には乳牛牧跡の碑がある。

資料名：大阪市ホームページ、東淀川区ホームページ

### 平田の渡し

- ・平田の渡しは延宝4年（1676）頃が開かれた。大坂町奉行から認可を受けて、手広く渡船業を営んだ土豪沢田佐平太の名からとったものではないかと言われているが、当時の渡しは、西成郡豊里村大字天王寺荘字平田と東成郡古市村大字今市を結んでいたもので、この地名からきたとも考えられる。
- ・この地は丹波地方や大和地方への交通の要地で、淀川を上下する川船を改める番所があり、淀川兩岸は渡船で結ばれていた。
- ・明治の新淀川開削工事によって、明治37年以降は豊里村内の飛び地を結ぶ村営渡船場（請負制）として存続し、明治40年に大阪府営になった。
- ・大正8年からは道路の一部に認定され無料となり、大正14年に豊里村が大阪市に編入されたのに伴い市に引き継がれ、昭和23年4月には大阪市の直営となった。
- ・昭和45年3月、豊里大橋の開通により300年に及ぶ歴史を閉じた。

資料名：ひがしよどがわ区の暮らしの歴史を語る（平成7年3月）

### 河川敷のたまり

- ・淀川河川敷に背が立たないくらい深い水たまりが沢山あり、そこにフナ、モロコ、ドジョウ、ウナギなどの魚が沢山いた。終戦頃まではその魚を捕ってきて家で炊いておかずにして食べていた。
- ・小学校にプールがなかったので、河川敷の水たまりで水泳教室をやっていた。
- ・下級生は水たまり、上級生は本流で先生にについて泳がせてもらっていた。
- ・本流に行って縄張りしてスイカを投げていた。

### 牛の草刈り

- ・戦前は豊里は大部分の家が農家で牛を飼っていた。牛の世話は子供の仕事で、春から夏にかけては朝、河川敷に牛を連れて行き、草を刈って食べさせ夕方に連れて帰った。